

(1) 提言書骨子(案)について(報告事項)

関係資料	【資料1】審議及びスケジュールについて 【資料2】提言書骨子(案)項目及び意見一覧 【資料3】提言書骨子(案)
松村会長	事務局から説明をお願いします。
事務局 (柳沼次長)	<p>骨子案についてご説明します。本日配付となつてしまい、誠に申し訳ございません。内容についてお話をいたします。</p> <p>【資料2】「提言書骨子(案)項目及び意見一覧」は、前回の審議会において頂いたご意見をまとめたもので、確認のため、事前に送付させて頂いております。その後、修正や追加のご意見を頂いた内容を反映しております。</p> <p>【資料3】「提言書骨子(案)」は、【資料2】の項目をもとにまとめさせて頂き、提言書の骨子として作成したものです。【資料3】に沿ってご説明いたします。</p> <p>まず、骨子(案)の内容について、概要をお付けすればよかったのですが、内容としては、</p> <p>まず、「現状と課題」を4点あげさせて頂いております。概要を申し上げますと、</p> <ul style="list-style-type: none">「1 スポーツ実施率の低下」「2 誰もがスポーツを楽しむことができる環境の整備」「3 スポーツに関する啓発情報提供活動」「4 スポーツを核とした地域の交流連携が難しくなってきたことについて」 <p>ということで、皆様から頂いた課題についてまとめております。</p> <p>2番目に、提言の内容について、先ほど会長からもお話がありましたように、提言につきましてはⅥまでございます。ちょっと多いのかなというところもありますが、</p> <ul style="list-style-type: none">「Ⅰ 多様な主体が参加できる運動スポーツの機会創出」「Ⅱ 誰でも気軽にスポーツに親しめる環境づくり」「Ⅲ スポーツを支え、共に楽しむボランティアの育成」「Ⅳ パラスポーツの普及促進、誰もが一緒に楽しめるスポーツの機会創出共生社会の実現」「Ⅴ 効果的なスポーツ情報の発信」「Ⅵ 関係機関との連携協力によるスポーツの推進」 <p>ということで、6つの提言を出させて頂いております。</p> <p>では、内容につきまして、【資料3】の1ページ目の方から説明させて頂きますので、宜しくお願いします。</p>
	1 現状と課題 (1) スポーツ実施率の低下について
	郡山市のスポーツ実施率は、下降傾向で、現在52.8%となり、特に40・50代が低い状況であり、スポーツ実施率の低い層への対策が求められます。また、年代によって運動スポーツの取組にばらつきがあるという現状です。こちらの内容としましては、前回もお示しましたが、2022年のネットモニターの調査結果について表示しております。2022年が52.8%ということで、取り組んでない方の理由としては、「仕事や家事が忙し

い」、「面倒くさい」、「お金の余裕が無い」、「育児が忙しい」、などの理由がございます。スポーツ実施率の向上のために、誰もが気軽にスポーツに参加できる場や機会の創出、子ども、子育て世代、高齢者など各世代および多様な主体のニーズへの対応が必要であると、まとめてあります。

(2) 誰もがスポーツを楽しむことができる環境の整備について

現在スポーツイベントや大会等へ参加した人の割合が16.5%、スポーツ観戦した人の割合が24.6%と、上昇傾向にあります。性別や年齢、障がいの有無を問わず、誰もが気軽にスポーツを楽しめる環境がまだ充分には整っていないという課題があります。

スポーツイベントや大会に参加した方の割合に関して、スポーツ観戦した人の割合、スポーツ実施率について、ネットモニターの調査結果を載せております。

スポーツを「する」だけでなく、スポーツ観戦・応援などの「みる」、指導者やボランティアとしてスポーツを「ささえる」ことなど、それぞれが望む多様な形で参加できる場や機会が求められているという課題があります。

誰もが一緒に参加できるスポーツとして、パラスポーツへの関心が高まっておりますが、市が行った調査では、生涯スポーツなどに関心がある方は過半数を超えているものの、そのスポーツを見たり、参加したことがある方は半数未満となっております。

また、障がい者スポーツに関心がある方は54.4%となっておりますが、観戦されている方、競技を体験されている方につきましては約半数程度となっております。

次のページをお開き願います。パラスポーツは、まだ広く身近な存在にはなっていないため今後も理解促進のための啓発や体験、交流の機会を確保する必要があります。また、現状では障がい者と健常者が一緒にスポーツをする機会が少ないため、ともにスポーツを楽しみ、交流する場づくりをすることが必要である、という課題となっております。

(3) スポーツに関する啓発、情報提供活動について

現在、スポーツ実施の頻度が少ない方や非実施層に対して十分な啓発が行えていないのではないか、情報発信を強化する必要がある、という課題があります。またスポーツに関して欲しい情報がスムーズに得られない、情報や魅力の発信が不足していると感じられる状況があるため、情報提供を充実させる必要がある、としております。

(4) スポーツを核にした地域の交流・連携が難しくなってきたことについて

地域スポーツの振興については、各地区体育協会等の地区組織が主体となり、運動会などを開催するなど、住民自らで盛り上げてまいりましたが、人口減少による担い手の不足、地域コミュニティの希薄化に加え、コロナ禍の活動自粛などを経て活動の維持が困難となっている状況がございます。地域内の団体や組織、個人がより繋がり、地域コミュニティに新しい価値とスポーツの好循環が生まれるような仕組みづくりが望まれているという現状でございます。

以上、4点が課題と現状ということで分析をしております。

これらの課題を踏まえ、ネットモニターの結果、また、前回皆様から頂きました提言等における課題等も踏まえ、こちらの提言骨子とさせて頂いております。

提言Ⅰ 多様な主体が参加できる運動スポーツの機会創出

こちらは、子どもから高齢者、障がいの有無に関わらず多様な方々、多様な状況にある方々が参加できる機会を創出する、という内容になっております。

(1) 子どもや親子が楽しんで体を動かせる機会、遊びを通じてスポーツに触れる機会の充実を図る。

- ・子ども達が外で遊ぶ機会が少なくなっているため、遊びを通じて楽しく体を動かすことやスポーツに親しむ機会の提供、自由に遊べる場所の提供を行う。

(2) 誰もが気軽に自由にスポーツを楽しめる「場づくり」等の機会を提供する。

- ・誰もがいつでも自由にスポーツができる広場等を提供する。各種スポーツイベントの開催、指導員等も配置する。
- ・年齢や障がいの有無等に関わらず、気軽に楽しめる運動・スポーツの参加機会を創出する。子ども、働き世代、高齢者等のあらゆる世代のそれぞれのニーズを捉えた運動・スポーツの機会創出を図る。運動量が低下しやすい高齢者の健康維持、運動する機会が少ない方にも参加しやすい施策等も推進する。

(3) スポーツ教室やスポーツイベント等の更なる魅力アップを図り、誰もが参加しやすい体制を整える。

- ・郡山シティーマラソン大会のように、子どもから高齢者、障がいの有無に関わらず、様々な人が参加できる魅力的なイベントを実施し、市民のスポーツ参画を促進する。
- ・ポイント制を導入したスポーツイベント等、参加したくなる仕組みを取り入れる。

以上が提言Ⅰとしてまとめております。

提言Ⅱ 誰でも気軽にスポーツに親しめる環境づくり

こちらにつきましては、先ほどの提言Ⅰで申し上げました機会の創出を促進する環境づくりという内容でまとめてございます。

(1) スポーツに楽しく取り組むために、指導・支援のできるスポーツ指導者やスポーツボランティアが活躍できる機会をつくる。

- ・スポーツ施設内に、スポーツの相手をしてくれるボランティアや指導員等を配置し、一人でもスポーツ施設を気軽に利用し、スポーツを楽しむことのできる環境を整備する。
- ・協力するボランティアもお互いに楽しめる環境を整備する。

(2) 豊富な地域資源や施設、各種イベントを活かした、健康ウォーキング等の運動がしやすい環境を整える。

- ・スポーツが気軽にできる場として公園や空き地等のスペースを積極的に活用する。
- ・ウォーキングは最も親しまれる運動であることから、ウォーキングやランニングがしやすく安全な道路の整備等、関係部署と連携し、自然と歩きたくなるまちづくりを推進する。
- ・イベント開催時に、会場までの道のりにおいて、ICTを活用したウォーキングイベントを実施する等、歩いて行きたくなる仕掛けづくりを行う。

提言Ⅲ スポーツを支え、共に楽しむボランティアの育成

(1) スポーツを「みる」「ささえる」機会の充実を図り、スポーツとの出会いに様々

な選択肢を用意する。

- ・東京 2020 大会においては、ボランティアや専門的スタッフ等が大いに活躍したことを踏まえ、スポーツ活動を「ささえる」人材を積極的に確保する。
- ・子ども達がスポーツに興味を持ちながら、共に楽しむことのできるボランティア活動の機会を積極的に提供する。

(2) スポーツボランティアの資質向上を図りながら、障がいの有無に関わらず、共に楽しめるスポーツの参加・交流の機会を創出する。

- ・支援を必要とする障がい者をサポートするボランティアを増やし、障がい者がスポーツに参加しやすい環境を構築する。
- ・ボランティア参加促進に併せて、ボランティアの基礎知識や意識について学ぶ研修を実施し、資質向上を図る。

提言Ⅲは、ボランティアの内容についてのまとめでございます。

提言Ⅳ パラスポーツの普及推進、誰もが一緒に楽しめるスポーツの機会創出、共生社会の実現

(1) 誰もが一緒に楽しめるパラスポーツの普及を推進するとともに、パラスポーツを通じた交流や体験により共生社会への理解促進を図る。

- ・パラスポーツは、障がい者のためのスポーツではなく、障がいのある人もない人も高齢者もみんな楽しめる「もうひとつのスポーツ」であり、ポッチャなどのパラスポーツを普及することで、障がいのある人とない人との交流、相互理解の促進、共生社会の実現を図っていく。
- ・パラスポーツの理解促進のために、積極的に体験の機会を提供する。
- ・多様な主体に対して積極的に参加呼び掛けを行う。子どもや一般の方の参加を増やすための広報を積極的に行う。

(2) 性別や年齢、障がいの有無などによって、スポーツの取組に差が生じないように、関係機関との連携を充実させる。

- ・障がい者のスポーツ参画について、現状では、障がい者と健常者がともに活動する場が少ないことから、スポーツを通じた交流促進のために、関係機関との連携協力により、積極的に交流の場づくりをする。
- ・誰もがスポーツを楽しめるよう、障がいの特性等それぞれの状況に配慮した対応を行う。
- ・子ども、子育て世代、高齢者等の各世代や、障がい者等、多様な主体のスポーツ参画の検討や事業を実施する際には、市の各関係部署と連携し、効果的に行えるようにする。

こちらについては、パラスポーツの普及推進ということで、障がい者の方や、そういった特性に関わらず、誰もが一緒に楽しめるスポーツを普及しましょうという内容になっております。

続きまして5ページをお開きください。

提言Ⅴ 効果的なスポーツ情報の発信

(1) 市のスポーツ情報が集まるサイトや場所の整備に努め、積極的なスポーツ・イベント情報の発信、魅力発信を行う。

- ・スポーツに関する情報が集まり、プロスポーツのチケット販売、スポーツの魅力

	<p>発信、大会成績等の展示、パラスポーツ等の体験もできる、スポーツの情報拠点となる場を整備する。ショッピングモールの中など、便利で気軽に立ち寄れる場所に設置し、誰もが楽しくスポーツに触れることができ、郡山市らしいスポーツの機会を創出する場所にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郡山市におけるスポーツの情報が集まる情報プラットフォームをインターネット上に構築し、様々なスポーツの情報にアクセスできるようにする。 <p>(2) 市が取り組む学校対象のスポーツ教育推進事業や、市民のスポーツ関連の活動の様子、助成金等について積極的に情報発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ振興課と学校の連携を強化し、「する・みる・支える・知る」スポーツ推進事業等のスポーツ教育が多くの学校で実施されるよう周知を図る。 ・市独自のスポーツ顕彰の創設や、活躍した市民や団体をテレビ等の広報で取り上げるなどにより、注目度を上げるとともに、スポーツ参画への意識高揚を図る。 ・スポーツ団体の活動支援として県のスポーツ振興基金等、財源等積極的な情報発信による支援情報を発信する。 <p>スポーツ情報の総合的な情報発信基地のようなものがあるとよい、という話がありまして、その内容でまとめてございます。</p> <p>提言Ⅵ 関係機関との連携・協力によるスポーツの推進</p> <p>(1) プロスポーツを含む各競技団体、大学、医療機関等と連携し、スポーツによる健康増進、アスリートの育成等を強化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学や医療機関等と連携し、研究データ活用等により各世代の健康状態の傾向等を把握し、スポーツを通じた市民の健康増進に取り組む。 ・トップアスリート育成のための成長期に合わせたトレーニングメニュー、スポーツ傷害予防法等についても、医療との連携等により対応していく。 <p>(2) 地域のスポーツ活動を支える各団体が情報を共有してスポーツを推進し、まちづくりの創出にも繋がられるよう、連携・協働できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域スポーツの振興のために、必要に応じて、地区体育協会や町内会の体育担当に対して、活動活性化のノウハウ提供や、必要な活動支援を市から行う。 ・まちづくりデザイン等の研究を行っている地元の大学との連携やボランティア協力等により、地域スポーツ振興を図る。 <p>以上、6つの提言となっております。こちらにつきましては、先ほど議長の方からお話がありましたが、重複する部分や、ちょっと量が多いというところもあるかもしれないので、皆様からの忌憚のないご意見を頂きたいと思っておりますので、よろしく願います。</p> <p>松村会長 ありがとうございました。事務局から提案書骨子（案）について説明がありましたが、まず何かご質問等があれば。いっぺんに6項目について説明して頂きましたので、どこから切り込んでいっても、提言ⅠでもⅥでも構いません。ご意見等はいかがでしょうか。</p> <p>鈴木委員 非常に立派な表現で、分かりやすい提言になっていますが、物足りないのは、受け取</p>
--	---

	<p>った市がこれを読んだときに、では何から手を付けたらいいのかというところ。それぞれの項目で、具体的な提言をしないとわからないのではないかと思います。例えば、こういう指導員を配置してほしいとか、こういう種目が手薄になっているので専門家を配置してほしいとか。受け取った側が予算を立てられるように具体的な提言にしないと。実現しようとしまいと、理想論がどこまでも言える委員会なので、してほしいことを具体的に言ってあげないと分からないのではないかと思います。私たちはスポーツに対して、ものすごく意識を高めているので、頭の中にはいろいろな構想があるわけですが、その構想をきちんと言わないと、どうしたらいいの？となる。立派なことがいっぱい書いてあっても、「よく分かります、理解できます」と言われて、それで終わってしまう可能性もなきにしもあらず。何もやってくれなくても、よくわかりました、で終わってしまったら、私たちの努力は水の泡になってしまう、という不安があります。だから、バーンと 100 項目ぐらい提言して、その中の1つでも2つでも実現できたらいいと思います。すごく立派な提言だけど、では何をしてほしいのか、というところまで、私達はきちんと文章化して、構想を形にしないといけないのではないかと思います</p>
<p>松村会長</p>	<p>ありがとうございました。6項目ありますが、1つでも具体的な提案が必要ではないかという鈴木委員のご意見です。その他いかがでしょうか。</p> <p>確かに、実現可能なものでも、ある程度理想論を立てて、その実現に向かっていく、そういう審議会になると思いますので。できるとかできないとかを最初に言うてしまうと話が進まなくなってしまうので、こうしてできればいいな、という意見が沢山出て、その中で1つでも2つでもまとめていければいいと思います。そういう意味では、どこの項目からでも結構ですので、皆さんの専門的な知識の中から、1つでも2つでも、具体的な提案を出していただければと思います。</p> <p>その他にもっと別の視点で、皆さん、私はこんなふうに思っていたという意見がありましたら、出していただければと思います。</p>
<p>西田委員</p>	<p>ファイヤーボンズの西田でございます。今、鈴木委員からあったように、具体性をどうつけていくかというところが大事なのではないかと思います。</p> <p>この提言書はどういう取り扱いになって、誰が受理して、どうされていくものなのかをお伺いしたい。予算という話もありましたが、どんな流れで、どう行き届くのでしょうか。</p>
<p>事務局 (上野主査)</p>	<p>スポーツ振興課の上野と申します。資料 1 をご覧ください。こちらに審議のスケジュールがありまして、今回は、提言骨子案の確認となっております。提言書は、市のほうに提出しますが、市でその内容を見まして、その中から予算化していくものなどを精査した上、予算化される場合もあります。</p>
<p>西田委員</p>	<p>資料 1 の「市への提言書提出」と書いてある、「市」というのは議会なのでしょう。どんなものなのか、わからないので。</p>

事務局(上野主査)	市長のほうに提出をするようになります。
西田委員	市長が目を通して、これはいいなとなれば、じゃあこれを予算検討しなさいというのが各部に落ちてくような、そんなイメージでしょうか？
事務局(上野主査)	はい。
西田委員	<p>ありがとうございます。先ほど鈴木委員からもありましたが、どれだけインパクトを与えられるか、というところではないかなと思います。この提言6つともすごく大事なことだと思いますし、多分どの市でもこういうことを考えられているのだろうと思います。そんな中で、郡山市がこの東北に先駆けてこういうことをやっていくんだと。少子高齢化でいかにシニアの健康寿命を伸ばしていくか、子ども達の健康意識を高めていくか、というところは、もう待たないだと思えます。それをのんきにこのままやっていくのですか？という危機感を持ってもらうような、それくらいのトップメッセージのようなものを出して、本当にスポーツを真剣に考えて、向き合っていますか？というようなことをぶつけて、その中で、具体的なことを筋道を立てて伝えないと、「まあ大事だよ、健康・スポーツ。」で終わってしまうのではないかという心配があるので。本当に市長になのであれば、市長が、「これは本当に大事なことだし、向き合わないといけない、どんどん人が流れていき戻って来なくなってしまう、でも子育ては郡山でいたいと思えるような理由がこうして創れるよね。」というように持っていけないのでは。幸い、開成山の体育施設整備やパーク PFI 等の環境も良くなっていくという好材料が揃っている中で、今がチャンスだし、逆に今動かないと、どんどん遅れをとってしまうというような、そんな危機感を与えるような提言が、最初にトップメッセージとしてあったらいいのではないかなと思いました。</p>
松村会長	ありがとうございます。これなら何とかしようと思えるような、インパクトのある表現の仕方、具体的な例をつけながら提案したほうがいいのではないかというご意見です。その他、どうでしょうか。
齋藤委員	<p>私も鈴木委員、西田委員と同じような感じですが、やはりインパクトを与えるという意味では、西田さんがおっしゃったように、このままでいいのかなと感じさせるか、もしくは、ワクワクさせるのがよいのではないかなと思います。この文章では、両方とも感じられないと思うので、私としては、ワクワクするような理想の形みたいなものを出せるといいのかなと思っています。それは例えばファイヤーボンズさんは、郡山市民全員が、もっと言うと福島県民が、心が躍る、心が動かされる可能性を持っていると思います。私は広島出身で、今とてもワクワクしています。広島カープが十連勝。このワクワク感、広島を離れた、出身の人間でも持ち続けます。ということは、スポーツはそうして人にプライドをちゃんと与えられるということ。その話を北海道新聞の人としたときに、「それ、駒大苫小牧高が甲子園優勝した時に、北海道民はみんな感じた。」とおっしゃっていました。だから、そういう皆の心がワクワクするようなことを何か目標</p>

	<p>的に出して。それには、ちょっとこの中では足りないと思ったのは、もちろん進化しなければいけないことなのかもしれないですけど、例えば、企業とかも巻き込んで、ファイヤーボンズが日本一になることで、郡山市民のプライド、自信をもう一つ上げる、というようなこと。そういうことをもとに、「それなら、ボランティアも必要だよ。見る人も必要だよ。スポーツをやって、もちろん中体連とかで頑張る人も必要だよ。」というような一体感が見えるといいのではないかなと思います。</p>
<p>松村会長</p>	<p>ありがとうございました。エアリービーズさんが決勝リーグに残ったときに、2日間、私達も埼玉に応援に行きました。やはり結構盛り上がりまして、帰りのバスの中で、皆でワイワイして帰ってきて、よかったねえと言った思い出があります。地元のプロスポーツが活躍するのを見ると、市民が元気をもらえるということが本当にあると思います。</p> <p>その他いかがでしょうか。話があちこち飛びますが、情報発信という観点から、成澤さんの意見はどうですか。</p>
<p>成澤委員</p>	<p>ドコモビジネスソリューションズの成澤と申します。我々、ドコモビジネスソリューションズは、ドコモと NTT コミュニケーションズと一緒にした会社なのですが、先ほどの、具体的にしていかなければという話で言いますと、具体的に提供できるサービスは色々あるなと思ひまして。例えば、ポイントを導入したイベントという話がありましたが、それで言うと、例えば、山形県や宮城県のある市町村でご利用頂いている「健康マイレージサービス」というものがあり、スマートフォンにアプリを入れて頂いて、それが歩数計になっていて、ある程度の歩数になったらポイントが貯まるものとか。あとはスポーツではないですが、健康診断の場所に行くポイントが貯まるといったことで、市民の健康を守るような、そんなサービスもご提供可能だと思って伺っていました。あとは、教育のところ、郡山市さんで小中学校にタブレットのご契約を頂いておりますので、それを有効活用できないかなと思ひしております。宮城県のある私立高校ですが、体育の授業をスマートフォンのカメラでいっぱい囲んで、誰かが体操しているところを皆がいろんな角度で、自分が見たい角度から見れるというサービスもありますので、そういうものを使いながら、盛り上げていければ、と思ひました。そのようないろいろなプラットフォーム、いろんなことをご提供できると思ひ聞いておりました。</p>
<p>松村会長</p>	<p>ありがとうございました。私たちはそういうところの活用の仕方については疎いものですから。こういうのもできるよ、ということをご教示頂ければと思います。</p> <p>太田委員は、専門的なところから、いかがでしょうか。</p>
<p>太田委員</p>	<p>医師会のことで言うと、今回の提言とは別なのかもしれませんが、若い子たちがスポーツをやれば、やはり、それなりの傷害を伴うわけですが、今のところ、それに対する医師会の統一された取組というのはない。それぞれの診療所で自分達の経験をもとにしてやっているの、先ほど、まとめて医療機関で何かシステム作りができないかみた</p>

	<p>いなことが、ちらっと書いてあったのですが、今のところはそういうものが無いというのが一つ。</p> <p>あとは、今、医師会で取り組んでいることと言うと、皆さんがやっているような大きな展望ではないのですが、郡山シティーマラソンの救護。あとは、スポーツ医学講演会をやっていて、市の教育関係や体協関係の方とか、そういう方にも受講頂いておりました。ここ3年程はコロナでやっていなかったのですが、それを、この秋から復活させようということで考えております。</p> <p>あと、こんな話を今頃こんなところで言っているのかどうか、ちょっとわからないのですが、多分、スポーツやる人とやらない人で二極化しているんですね。小さい頃からスポ少でやってる子達と、全然やらないで自宅にこもってゲームをやっている子達。そうすると、スポ少からスポーツの方に流れていくのが自然の流れだと思うのですが、ゲームをやった子達はどのようにするという話になると、今は、eスポーツというものが話題になってきて、私達が昔では考えられなかったようなことがスポーツだと捉えられているので。郡山で、もしそういうものがなければ、そういうことをやりだす人がいるのかとか。そういう提案が逆であってもいいのかなと、話を聞いていて思ったので。この場で話すことが適切なことなのか、ちょっと分かりませんが、一つの意見として、eスポーツというのも、郡山で発展させれば、何か一つ目玉になるのではないかと思います。</p>
松村会長	eスポーツについては、スポーツ振興課で何か研修等などをやっていたようですが。
事務局(福本補佐)	研修ではないですが、勉強はしております。
事務局 (柳沼次長)	eスポーツについては、先日、国際アートデザイン大学校の方が、今回ウランバートルで行われる東アジアのユース競技大会に出るということで、こちらに表敬訪問にいらっしゃいました。東アジアユース競技大会というのは、例えば水泳とかそういった普通の競技もある大会なのですが、その中のeスポーツ競技で出場されるということで。郡山市でもこういった学校もありますので、そういったところを進めるということもあるのかなと思います。
松村会長	それぞれ具体的に、インパクトのあるものということも含めまして、鈴木委員が最初に口火を切ってくれました。各項目で、具体的にこういうものを持ってきてはどうかというご意見も含めてありましたら、意見を募りたいと思います。
佐久間委員	市中体連の会長をしております、安積中学校長の佐久間と申します。提言Ⅳで、パラスポーツの普及推進とか、共生社会の実現という項目があります。郡山市内の小中学校、義務教育学校では、市教育委員会のご指導を受けまして、教育課程という、学校で取り組む教育活動の計画がありますが、これにSDGsと関連付けて作成するというようになっております。SDGsの持続可能な社会という視点で考えると、この共生社会とかと繋がる部分がたくさんあります。また、こちらの提言の中にも、相互理解の促

	<p>進とか、パラスポーツを普及させていくとかがあるので、SDGsの項目と関連付けると、郡山市としてもそこはすごく取り組んでいるところなので、インパクトのあることになるのかなと。具体的にここ、ということではないのですが、SDGsとも関連付けていくとすごくいいのかなと思います。</p>
<p>松村会長</p>	<p>ありがとうございました。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>提言Ⅴに、スポーツ顕彰の創設というのがあって、ぜひ創設して欲しいと思いますが、では創設するとしたらどんな構想なのかとか、先進県で創設しているところの情報等を少し参考までに補足資料として書いておくと、わかりやすくいいのではないかと思います。</p>
<p>松村会長</p>	<p>その他いかがでしょうか。</p> <p>では、私の方から、提言ではないのですが、関係機関との連携というところで、前回の審議会でも少しお話ししましたが、地域の体育協会がなかなか苦しんでいるという話があって調査をしました。そうしたところ、「どう事業を再開してよいかわからない」という意見がありました。体育協会に所属している13地区については、会長さん達を呼んで現状を聞きながら、話し合うことができるのですが、中心部の旧市内のほうは体協がありませんのでそれができない。旧市内では、スポーツ推進員と公民館が中心になって、各町内会で実施していて、体育協会には入っていないので、こちらから情報発信するわけにもいかない。そして、市教育委員会の生涯学習課の所管になっています。それで、その調査をした時に、各公民館でどんな活動がどれだけ中止になったかという情報を、中央公民館から頂きました。そういうところとも連携を持って、旧市内の人達が日頃どんなスポーツ活動をしているのかなど、もっと情報を掴んでおく必要があるのではないかと思います。だから、そういうところも含めて活性化を図るとすれば、どこが中心になってやるかということもありますが、こうやって連携して、情報を共有していきましょう、という提言があってもいいのかなと思っておりました。公民館活動と地域の人達のスポーツ活動の連携をどうにかして強化していきたいと感じております。課題の中にも、地域のスポーツ活動がなかなか進められてないということがありますが、具体的に言うと、町内会活動に参加する人がほとんどいなくなってしまったとか、そういう状況になりつつあるので、そういうところが元に戻れば、地域住民のスポーツの活動や健康増進に大きく役立っていくのかなと感じております。</p> <p>その他いかがでしょうか。どういう切り口でも結構ですので、ご意見をプラスしていきたいと思います。</p>
<p>若松委員</p>	<p>県障がい者スポーツ指導者協議会の若松と申します。提言の中で、パラスポーツ、障がい者スポーツという言葉がたくさん入っていて、郡山市がかなり頑張ってくれたところだと、私としてはすごく評価しているというか、嬉しく思っています。ただ、例えば提言Ⅳのところ、パラスポーツの普及、障がいのある人とない人の交流、その理解の実現を図っていくというところ。先ほどの松村会長の話にも関連しますが、地域の老</p>

	<p>人会とか、プレイセンターとかの活動に呼ばれて、ボッチャをやらせていただくことが結構ありますが、「楽しいですね」、「いいですね」で終わってしまうんですね。福島市の例で言うと、各地域対抗でボッチャ大会をやっていて、そのチームは、僕とお父さんとおじいちゃんとか、そんな感じでやっていたりします。そこでベスト4くらいになったら市の大会に出られますよ、またそこで優勝したら、NF、日本ボッチャ協会で行っている東京カップに出場する権利が与えられますよ、というような流れがあるので、じゃあ頑張るやろうかなという意欲も湧いてくる。</p> <p>先ほどのポイント制にも関連する内容かなと思いますが、交流の場を積極的に作っていただけでは、「やりました」「楽しかったです」「よかった」で終わってしまいますが、そうではなくて。例えば、ここで具体的な名前が出ている、郡山シティーマラソンも、例えば10万人が参加する大会にするとか、日本一の部門に分かれている大会だとか、何かそういうインパクトがあるようなものにしたりとか。パラスポーツで言えば、一般の大会とか、例えば陸上の日本選手権の中で、最後に車椅子の1,500mのレースをやるとか。日本で世界記録を持っているような選手達は結構いらっしゃるんで、そういう人達が活躍するような見せ場をつくるとか。</p> <p>例えば、EARTHという車椅子バスケットチームがデモンストレーションを結構やっているのですが、そういう体験ブースがあったり。バレーボールに関して、シッティングバレーボールというパラスポーツもありますので、そういうもののNF、日本協会さんや連盟さんとの繋がりを持ちながら、見せる部分、楽しめる部分を強化できたらなと。</p> <p>話が変わりますが、資料3の「現状と課題」のところで、取り組めない理由として、「仕事や家事が忙しい」とか、ちょうど僕達の世代のところはずぼっと抜けているなと思ったのですが、家事や子育てで忙しいというのであれば、さっき言ったみたいに子どもを巻き込みながらとか。じいちゃん、ばあちゃんとか、家族皆で取り組めるようなもので、本当に一番身近なところである地域で行うような、ちょっと行けばできるというところから、大会に繋げていくとか、そういうことが具体的にこれから見えてくるのかなと、そんなふうに思いました。</p>
松村会長	<p>ありがとうございました。すごく大切なところだと思います。</p>
事務局 (柳沼次長)	<p>本市においてもパラスポーツの普及を事業として進めておりまして、やはりボッチャが、誰でも一緒にできるということで、ボッチャの用具貸し出しを行っております。</p> <p>先日も公民館に貸し出しをして、その中で高齢のおじいちゃん世代と、お孫さんのような世代でスポーツを一緒にやって楽しかったという話もありました。このスポーツは年齢や障がいの有無に関わらずできるスポーツですので、こういったものを具体的に進めていくというも、内容としてはありがたいのかなと考えております。</p>
松村会長	<p>ありがとうございました。若松委員の方から話が出たように、「やりました」「楽しかった」「よかったね」で、それももちろん大切なのですが、その先があれば、もしかして取組み方も変わってくるのかなと思います。これをやると、次に何ができる、次にこんなところに行けるとか、次の展開が見えるような取組ができればいいのかなと。ボッ</p>

	<p>チャだったら、3回経験した人達で大会をやりますよ、というのがあると本気になって入ってくるのかな、と話を聞いていて思いました。</p>
山本委員	<p>若松委員の話をなるほどと思って聞いておりました。確かに楽しいだけで終わるのであれば、それは郡山市の中だけで終わってしまうのかなと思いますので、ぜひ、郡山市から発信していくような、他県、全国から「こんなスポーツをやっていて、誰もが参加していて、すごいなあ」という声が聞こえてくるような発信の仕方を、私達は提案していかなければならないのかなと思います。楽しいものは楽しんで、地域で終わってしまうのもよいですが、逆に全国で「郡山市でこんなことをやってるんだ。じゃあ自分たちも地域でやってみよう。」と目を向けてくれるということもあるのかなと思います。ぜひ全国に向けて、全国から誰か来ていただくような形もありだと思えますし、私達は郡山市の中よりも、もっと大きなことも見ていったほうがいいのかと思いました。</p>
松村会長	<p>ありがとうございました。その他いかがでしょうか。</p>
品川委員	<p>スペシャルオリンピックスの品川です。知的障がいの方のスポーツ団体なので、狭い範囲でのお話になってしまうかもしれませんが、若松委員がおっしゃったようにパラスポーツと同様、スペシャルオリンピックスも誰もが一緒に楽しめるスポーツということで、知的障がいの方と一緒にスポーツをするユニファイド形式というやり方が実はあります。健常者と知的障がい者が一つのチームになって競技をするというもので、これはスペシャルオリンピックスの組織的にも全国大会があり、陸上やバスケット、サッカー等、競技種目もたくさんありますが、そういった共に楽しむ方法も、連携の一つ、具体策の一つとしてあってもよいと思います。</p> <p>あとは、体験から次に繋がるということも大事でありながら、障がい者はスポーツに触れる機会も少ない、機会にアクセスできないなどもあります。</p> <p>まず、楽しむこと、経験することから始まる方もいらっしゃるのでは、そういう方が参加しやすいアプローチをすることも並行して必要だと思います。</p> <p>また、郡山市としてスポーツに力を入れて行くというトップメッセージが市からあるとよいと思います。私の印象として音楽には力を入れているイメージが強いですが、スポーツには力を入れていない訳ではないですが、「市としてスポーツを推進している」というのがあると、市民の皆さんもいろいろなスポーツ活動への理解や注目されるのではないかと思います。</p> <p>障がい者ですと、情報発信をされていても、それをキャッチする術がない、自分自身で情報を得ることや、情報のある場所に行くということも難しいので、発信の仕方も、広い意味で工夫が必要なのかなと思います。</p>
松村会長	<p>ありがとうございました。</p>
事務局 (柳沼次長)	<p>今の意見も本当にありがたくて、実は昨日、私は初めてボッチャをやりました。職員何名かを集めて、どういうものを体験するというのでやりましたが、50代位の普</p>

	<p>段は難しい顔をして仕事をしてるような人達が、すごくキャーキャー楽しんでやっていた。そこで思ったのは、実際やってみないと、どういうものかわからないなど。用具がどこかに置いてあって、それを「なんだろうね、これ」と言って、そこでできるような場所があるといいねという話になりました。そういったことも今後考えてみようと思いますが、水泳とかバスケなどは、どういうスポーツなのか、皆わかると思いますが、ポッチャというのはどういうものだろうというところが、例えば、日頃から置いてあったりするといいのかな、と考えていたところです。</p> <p>やはり、こういうスポーツがあるよということを、情報発信していかないとな、と考えています。</p>
松村会長	<p>この前、若松委員から、畳一畳分あればできますという話をして頂きましたので。</p>
事務局 (柳沼次長)	<p>時間もかからずにできるので、忙しい人でも、本当に10分、20分位でも、逆に長くもできますし、そういうところもいいのかなと。あとは、やはり皆で一体感が出てくるというところで、ボールを入れたときに、盛り上がりたり、手を合わせたりとか、そういうところもあるので、なかなかよかったなと考えています。</p>
松村会長	<p>体験して楽しみがわかれば、参加者が増えていく可能性もありますね。そうすると、そういう機会を作って、誰でもできるような工夫を、私たちが提言の中に入れるということになりますかね。</p>
齋藤委員	<p>福島市はポッチャにすごく力を入れていて、各公民館に道具等が配置してあります。私もさわりだけですが、何度かやったことがあります。ただ、やっぱり指導者がいたほうがよいというか、何も知らない状態でポッチャの道具が置いてあっても、それをやろうという気も起きないし、多分やれないと思います。提言Ⅲ(2)のところに、スポーツボランティアの資質向上を図りながら…、という言葉があって、ボランティアの研修等を行って、スポーツボランティアという文化を作ろうという部分がすごく見えて、とても嬉しく思っています。そういった機会に、資格とまではいなくても、ポッチャのちょっとした指導員というものを入れ込んでいくと、ボランティアとしてスポーツを支えつつ、同時に、普及員みたいな、二重の力がつくと思うので、そういう意味では、提言Ⅳのパラスポーツの普及という中には、指導とか資格とか、研修とか資質向上という言葉が入っていなかったのが、入れた方がいいかなと思いました。</p>
松村会長	<p>ありがとうございました。</p>
鈴木委員	<p>指導者に関して、実は福島市ではスポーツに限らず、いろんなジャンルの指導者の登録制度があって、私もスポーツとか健康とか、あるいはジェンダー等に関して、こういう指導ができて、いつなら時間が空いてます、というようなリストがありますが、郡山市では、スポーツに関する指導のできる人のリスト等が、いつでも市民がネットで調べられるようなシステムになっているのかどうか。質問です。</p>

事務局(麻生係長)	郡山市では生涯学習課が所管なのですが、スポーツだけに限らず、講師の先生を見られるような「達人先生」というシステムがありまして、毎年更新で、郡山市のホームページにもジャンル分けして載せております。そういう生涯学習のいろいろな講師、お花の先生とかもあれば、スポーツの講師とかも載せております。
鈴木委員	こちらのほうから、スポーツに限定してリンクできるようにもしているということでしょうか。
事務局(麻生係長)	そうです。
松村会長	昔作っていた人材バンクみたいなものが、ネット上に載っているんですね。
事務局(麻生係長)	はい。前は冊子でやっていたのですが、今は冊子を無くしてホームページから誰でも見られるように。電話番号を載せている先生もいますが、載せてない先生は、一度生涯学習課を通して連絡をしております、この公民館の講座に来てほしいとか、個人的に団体さんが集まって、こういう先生に来てほしいというのを、生涯学習課を通してしております。
松村会長	鈴木委員よろしいでしょうか？
鈴木委員	はい、ぜひ、人材バンクの活用みたいなのも文言がどこかにあるといいかなあ、なんて思いました。
松村会長	そうですね。
西田委員	先ほど、インパクトがあったほうがいいというような話をさせて頂いたのですが、「楽都郡山」というようなところを、思い切って「スポーツの街 郡山」「スポーツと音楽の街」でもいいですけど、何かそんな言い方を思い切って提言するというのはいかがかなと思って。たくさんあると思いますが、ざっと調べた中で、愛知県豊橋市とか、千葉県柏市とか、静岡県磐田市とか、あとはさいたま市も、「スポーツの街」と言っていて。「スポーツのまちづくり課」というふうに担当課の名前を変えていたりという事例もあるようです。「スポーツのまち推進課」とか。そういうことがメッセージとしても明確に伝わって、スポーツを通じてこの地域を豊かにしていくよ、というような方向性が、郡山市にはこれから本当に時代に即して必要ではないかなと。音楽も素晴らしいものだと思いますが、健康ということ等を考えた時に、やっぱりスポーツ・運動というキーワードがそこにミックスされていかないと難しいだろうと思いますので、そんな提言が冒頭にあって、その下には皆さんから意見のあったようなことが散りばめられていると面白いのではないかなと思いました。「音楽とスポーツの街」に変える、あとは「スポーツのまちづくり課」というようなことを、名前は皆で考えればいいと思いますが、そんな課を作るというような提言があってもいいのかなと思いました。

	<p>あと、先ほどあったように、シティーマラソンに参加させますとか、年2回スポーツフェスティバルをやって、こんな規模のイベントをやりますとか、開成山公園を全部巻き込んでやりますとか。そんなイベントを考えていくとか、シンボルになるような、そんな計画がいいのかなと思いました。</p> <p>あと、最後に、今申し上げた、柏市や磐田市、さいたま市とかってというのは、こう謳っているのですが、やっぱりその中核には、柏レイソルがあったり、ジュビロ磐田があったりとか、やっぱりスポーツチームがあるんですね。それで、我々がまだ力不足ではありますが、そういうシンボリックなチームがあると、いろいろなことを推進しやすいというところがあって。街も、チームを利用して頂いて、やっていけるからこそ、そういう方向性になっているのだらうなと思います。なので、ファイヤーボンズだけが目立ちたいというわけではなくて、ファイヤーボンズがうまく地域に溶け込みながら、街の発展、スポーツ発展というところを推進していけたらいいのかなとも思います。なので、そういった意味で、郡山市にはその可能性があるのかなと思いますので、そんな打ち出し方はいかがでしょう、というところでした。</p>
鈴木委員	<p>関連して、ちょっと遊びなのですが、例えばスポーツ川柳とか、キャッチコピーとかを毎年募集して、優れたものは目立つところに看板みたいなものを立てるとか。サブリミナル効果のように、こうするといいことがあるとか、スポーツをすると健康にいいだとか。あるいは、健康や体に関して関心が高まる効果もあるだろうし、それからスポーツに関しての何かを作ろうというときに。その人は、少なくともスポーツに関して一生懸命考えるわけで。スポーツの関心度がスポーツをやる人だけではなくて、普通の人とか、言葉に関心のある人たちも巻き込んで、スポーツの意識が高まるのではないかなと。ぜひ、スポーツ川柳やキャッチコピーを募集して公表するというようなこともやって頂きたいなと思いました。</p>
松村会長	<p>わかりました。やっぱり、提言の頭にドカーンとコピーを付けて、インパクトがあるような、これをやるぞという意欲が湧くようなコピーがあれば、よろしいかなという感じがします。</p>
若松委員	<p>先ほどのお話で、ポッチャを体験して下さったということで、大変ありがたいと思います。実は、東京オリパラの時に、小池都知事がポッチャが大好きで、都庁チームがあったりとか。そんなふうな、スポーツを前面に出していてもよいのかなと。例えばおんぶちゃんに、ファイヤーボンズのユニフォームを着せちゃうとか。新国立競技場の前に、オリンピックの博物館がありますが、そこには、例えば、ボルトが走る時の一步の歩幅はこれです、というものが出てきたりとか、見ただけですけどいかなとを感じるようなものがあります。それで、例えば、市役所のホールの床にポッチャのコートのラインが引いてあったりしたら、そういうスポーツに力を入れていて、もしかして、ここでたまにやっているのかな、というイメージがちょっと植えつけられる。市庁舎の階段に何歩歩くと何カロリーという表示がありますが、例えば、走り高跳びの日本記録の高さはここですよ、というようなものを、棒を立ててそこに書いておくとか。そんなにお金をか</p>

	<p>けなくとも、何かそういうことで、スポーツをすごく気にしている市というイメージが持てるのかなと思うので。私自身、スポーツの拠点地域ということにすごくこだわってお話をしてきたと思っていますが、障がいをお持ちの方々は、あえてそれを見に行こうというのはなかなか厳しいと思うので、ショッピングモール等、買い物に行ったついでにちょっと立ち寄れるような、そういった場所がいいなと思います。人の集まるような市の公共施設というと、ビッグアイとかになると思うのですが、車椅子の人や重度障がいの方が行くことはほとんどないかなと。モールとかフェスタとかには、買い物に行ったりすると聞いたので、そういうところにあるといいなと思いました。</p> <p>それから、指導員のことに関してですが、毎年、郡山市の香久池のほうで、パラスポーツ指導員の養成講習会をやらせて頂いております。提言に書いてあるような、一緒にやってくれる方というよりも、指導員なので、障がいの理解等をしっかりと学んだ方々です。スポーツをする機会が必要だけれど、スポーツするにあたってはいろいろと配慮をしなくてはいけないという方もいらっしゃる。その配慮すべきことがどういうことなのかを学ぶ機会。パラスポーツ指導員が配置されるということは、すごくいいことだと思いますので、今年は12月の初旬中旬、多分3日、9日、10日の予定で、県のほうで動いてやっておりますので、周知をかけていきたいと思っております。</p> <p>あと一点ですが、私の本職は特別支援学校の教員なのですが、佐久間先生がおっしゃっていた、特別支援学級の子供たちは部活に入ってるのかな？というところで、他地域ではありますが、中体連の種目にボッチャが入っていて、特別支援学級の子供たちが参加するという取組をしている市があります。なかなか体育や部活に混ざれないような、支援学級の子供たちもいらっしゃると思うのですが、そういう子供達のきっかけになる取組だと思います。話が離れてしまいましたが、せっかくこういった機会なので、経験したことをフィードバックできたらと思い、お話しさせて頂きました。</p> <p>松村会長 ありがとうございます。小体連の陸上交換会に支援学校の児童達に来て、今年も参加して頂きました。今の意見などを参考にして、できれば、なかなか大変だと思いますが、中体連の方で検討していただければと思います。その他いかがでしょうか。</p> <p>佐久間委員 若松委員から貴重なご意見、教えて頂いてありがとうございました。今すぐ回答できませんけれども、何かの形で、中体連だったり、いろんな行事もありますので、考えていきたいと思えます。</p> <p> あと一つ、先ほど齋藤委員の方から、心がワクワクするような取組という話がありましたが、私もずっと野球をやっていたのですが、中学校の時に中体連でたまたま開成山野球場で試合ができました。思い返すと、プロ野球選手の王さんとか長嶋さんもここでやっていたんだなあと思い、すごく感動したことを今でも覚えています。ですので、今度、開成山地区体育施設が改修されるので、提言Ⅰの「スポーツの機会創出」とありますけれども、ぜひ、改修される開成山の体育施設を使っのスポーツイベントというのを、ここで考えていくといいのかなと思います。</p> <p> 例えば、私も今の開成山野球場が改修する前に、仲間と「さよなら開成山野球場」というイベントをしたことがあります。これは本当にボランティアで、自分たちでお金を</p>
--	---

	<p>集めて、いろんな方に協力してもらってやったのですが、結構たくさんの人達が来て、イベントに参加してくれました。中には、開成山野球場の土を持って帰る方もたくさんいたので、開成山っていうのは、郡山市民にとっては本当に思い出の大切な場所なのだ実感し、そこの施設をうまく使うことが大切かなと思いました。</p>
松村会長	<p>ありがとうございました。その他ございませんか。</p>
齋藤委員	<p>事業をするときに、一つひとつ後援申請等を出すのですが、締切が早かったり、結構面倒なところがあります。多分、面倒だと思っている方も多いと思うのですが、先程、西田委員がおっしゃったような「スポーツと音楽の街」を宣言するとしたら、事業をやる市民のほうから、それに合うイベントをやりましょうという企画をあげてもらってもよいのではないかと思います。それに対して、郡山市が「スポーツと音楽の街イベント認定」といったお墨付きをポンと出すような。後援ほど面倒ではないような。どんな小さなことでも、それにあげると、例えば、情報発信の核にすると書いていた情報プラットフォームや、あるいは街の中の情報コーナーとかにそれが載るといような。なるべく、スポーツ振興課の人が手をかけるのではなく、市民があげるとい形を作ると楽し、皆も自分事になって、じゃあお墨付きをもらおうかな、となるのかなと思います。</p>
鈴木委員	<p>市民が立ち上がったということに関連して、ふくしま国体が1995年に行われた後、県が20億の予算を取ってスポーツ振興基金を作っていて、4000万ほどの利息をいろんなスポーツ団体に分けていて、私も委員をやっているのですが。福島県は総合型地域スポーツクラブの先進県で、その頃から、全県的にクラブが立ち上がるよう一生懸命取り組んで、スポーツに関心のあるいろんな方達に、スポーツの専門家ではなくても、スポーツをやりたい主婦の方とかにでも、ノウハウを指導したり、お金を付けたりして、それで結構全県的に総合型地域スポーツクラブも30年経っていて安定している状態なのですが、郡山市の状況はいかがでしょうか。活性化しているのか、あるいは停滞しているのか。もう何年も経っているので、繁栄したり衰退したりと各クラブでいろんな状態になっているものですから、郡山市の状況がわかれば教えて頂きたいです。</p>
事務局(福本補佐)	<p>日本スポーツ協会の新たな認証登録に今回申請したのは、郡山では1クラブです。総合型クラブを謳って活動しているクラブは、今のところ4つ5つほどでございます。発展しているかといいますと、していない、ということになります。</p>
西田委員	<p>実態は、ほとんど1つの競技くらいしかできなくて、総合型の活動はほとんどできていない。</p>
事務局(福本補佐)	<p>はい。</p>
鈴木委員	<p>それは多分、地域の人たちの厚意とか善意とか、自主的な意思に任せているのではな</p>

	<p>いかなと、私はそう感じたのですが。県としては、体協に総合型地域スポーツクラブの立ち上げとか継続のために、かなり何百万もお金を出している実態があります。でも、いろいろ聞いてみると実際はどうなのかなと。学生の卒論の研究などで調査すると、必ずしもいい結果が得られてはいないようだったので、なんでかなあと。やっぱり、もう一つ何か足りないことがある。善意に頼っているだけでは、やはり繁栄はしないんだろうなと、私としては感じています。郡山もそうなのかな、なんて思いました。</p>
<p>松村会長</p>	<p>私は、立ち上げの仕事をずっとやりまして、郡山の現状をいうと、総合型地域スポーツクラブは、各中学校区で1個ずつ創るということだったので、26地区でスタートしました。行政の指導も受けながら、補助金も、国と県と市のものを合わせて、各クラブを立ち上げてくれということで、私も立ち上げに参加して、実際に活動もやっただのですが、結局5・6年位で、皆立ち消えになってしまいました。結局、新しく立ち上げるというやり方で、校区だと小さくて人材も少ないということで。どの地区も、その地域の中で活動をしているスポーツクラブの方々の協力を得ながら構築していくという形をとったのですが、なかなか新しい方が入ってくれなくて、だんだん立ち消えになったということです。この辺で上手くいってるのは本宮市で、会長さんをよく知っていましたので、どういうふうに今まで運営してきたのか聞いてみたら、本宮市の体育協会が中心となって、全市で1個の総合型地域スポーツクラブを作ったということでした。本宮市で1つの地域クラブを作って、全市の中から会員を募集して運営していくということで、うまく行って、今も続いているということでした。どうしても、補助金を打ち切られると、お金を出してまでやるかという、小さいところでやるのは、なかなかあの段階では難しかったかなと、実際にやってみて思いました。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>次回のスポーツ振興基金の理事会で、そういう情報をお伝えします。ありがとうございました。</p>
<p>西田委員</p>	<p>まさにその持続性、永続性がすごく難しい。</p>
<p>松村会長</p>	<p>そうなんですよ。</p>
<p>西田委員</p>	<p>私も今、なんとかプロスポーツの立場で貢献できないかなとすごく思っていて、部活動改革の問題もある中で、我々は、営業機能が会社の中にあるというスポーツ団体なのですが、そこが多分ほかの部活とか業界団体と違うところだと思って。僕らがその中に入って舵取りというか、皆さんと一緒に、できれば我々が地元の企業さんとくっつけていながら、財源を確保しながら、子ども達とか、子どもに限らずシニアも含めた幅広い年代でいいと思いますが、そういう人達がこぞって通えるような、そんな大きな総合型地域スポーツクラブのようなものが、開成山という素晴らしい場所があるので、本当にギュッと凝縮したい場所なので、あそこでそんなことができて、32万人のうち1万人が登録しているという位の話になれば、1人1000円位でも成り立つと思うんですよ。でも、それが本当に50人しか集まらないと、1人1000円の会費ではとても賄</p>

鈴木委員	<p>えないので。でも、やるとしたら、今おっしゃって頂いたような、全市で1つの大きなものを皆で創りませんか？ということができたら、本当に一世帯当たりの負担は本当に少なくやっていけるのかなと。夢物語に近いかもしれないですけど、そんなことができたらいいのかなと想像しているところでした。</p> <p>今、少子化の問題で、いろんな小学校で、いろんなクラブがあったのが、もう成立なくて、試合にも出られなくて、福島市では、3校、4校で合体して、何校かでチームを作って出るような実態があります。私達は、スポーツの振興を叫んでいるのですが、実際、小学校の現場では、できるスポーツがかなり限られて、本当にチームが組めないような状態があるので、そういう点にも配慮して、どうしたらいいのか考えていかなければいけないと思いました。</p>
松村会長	<p>予定した時間を延長して、まとめられず申し訳なかったですが、6つの項目から具体的なものを挙げていくという話から、インパクトがある提言を作った方がいいという意見もあって、皆さんからいろんなご意見を頂きました。最後にご意見等ありますか。</p> <p>(意見等なし。)</p>
松村会長	<p>よろしいでしょうか。皆さんから頂いたご意見につきましては、事務局で整理し、前回と同様に提案としてまとめた上で審議会に提案書の内容を確認するという事によろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし。)</p>
松村会長	<p>それでは、議題1については以上といたします。</p>

(2) その他

松村会長	<p>それでは次に、議題2「その他」になります。委員の皆様から、何かございますか。</p> <p>(意見、質問等なし。)</p>
松村会長	<p>なければ、事務局の方で何かありますか。</p>
事務局(柳沼次長)	<p>一つだけ。皆様からご意見を頂きまして、「多様な主体におけるスポーツ参画の促進」という内容で、皆様にご提言を頂いているような形となりますので、今、6項目の構成としておりますが、今回、皆様から頂いたご意見を入れ込んで、構成が若干変わることがあるかもしれませんが、それをご了承いただければと思います。</p>
松村会長	<p>今次長の方から説明ありましたが、よろしいですね。</p>

<p>松村会長</p>	<p>(異議なし。)</p> <p>それでは、議題2「その他」については、以上といたします。本日の議事はすべて終了いたします。ご協力ありがとうございました。議長の任を解かせて頂きます。</p>
<p>事務局(庭山補佐)</p>	<p>松村会長、ありがとうございました。また、委員の皆様方、慎重なご審議をありがとうございました。</p> <p>次回の審議会については9月に開催を予定しておりますが、後日、改めて日程調整をさせていただくこととしておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>以上をもちまして、令和5年度第2回郡山市スポーツ推進審議会を終了いたします。皆様、本日はお忙しい中、大変ありがとうございました。</p>